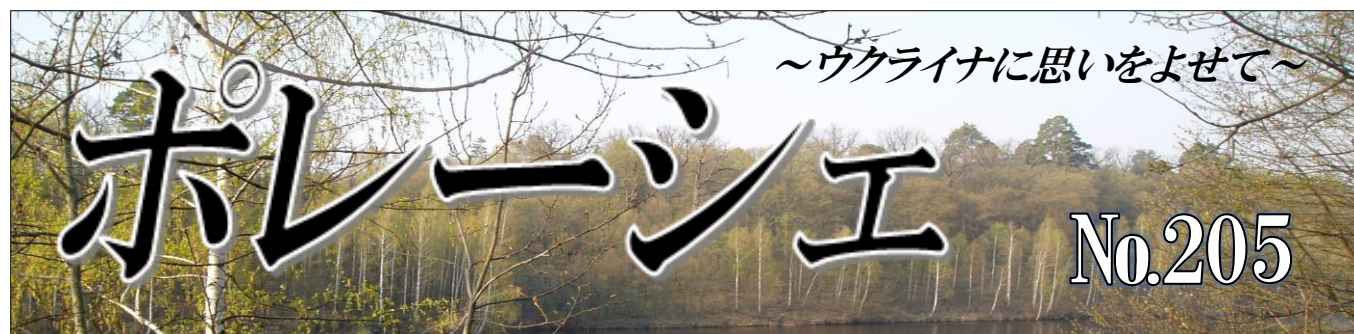


「ボレーシェ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。



2025 年 7 月 15 日発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

2025 年度通常総会& チェル救デー開催

6 月 14 日、なごや人権啓発センター ソレイユプラザなごやにて通常総会を開催しました。

正会員 38 名のうち 26 名（内、書面出席 17 名）の出席を得て総会は成立し、昨年度の事業報告、会計報告などすべての議案が承認されました。

また今年度は理事の改選により、理事 1 名の退任と監査の交代がありました。総会後の互選では、引き続き理事長に池田光司さん、副理事長に原富男さんが決まりました。

戦争が続きウクライナの人々の苦しみが増しています。チェルノブイリ被災者、そして戦争被害者にこの先も寄り添い、励まし、ささやかではありますが支えていきます。

総会後のチェル救デーでは、今年 4 月にウクライナを訪問した戸村さんの報告会が行われました。



「戦火のウクライナを訪問して」(2025 年 4 月 21 日～4 月 30 日)

戸村 京子

＜はじめに＞

今回のウクライナ訪問は、福島県の「希来(きら)基金」(南相馬市小高区)の小林友子さんからお誘いを受けて、チェル救の派遣ではなく、個人として参加しました。「希来」メンバーで映像作家の杉田さんと 3 人旅。戦時下のウクライナ行きを迷いながらも決断しました。私は 8 年ぶりの訪問でした。「ホステージ基金」ドンチェヴァさんは、ずっと付き添ってくれました。

訪問の一番の目的は、4 月 26 日のチェルノブイリ原発事故犠牲者の追悼式(39 周年)に参列することでした。そして長年お世話になった元ジトミル消防局局長で、「チェルノブイリの消防士たち」基金代表だったチュマクさんの墓参もありました。

＜ポーランド-バスで国境越え-ウクライナへ＞

【4/21】22:50 成田発の飛行機はロシアのシベリヤ上空を飛ぶことなく北上し、ベーリング海峡、北極、グリーンランド、バルト海からポーランド

のワルシャワへ（帰路は、ワルシャワ、ルーマニア、黒海、ジョージア、カザフスタン、モンゴル、中国、韓国上空から成田着）。

そして偶然にも成田空港で、ウクライナから愛知県に避難しているリーザさんと一緒になり、ジトミルまで一緒に行くことができました。彼女は実家のあるイルピンへ 3 年ぶりの里帰りでした。

＜ジトミル市-コロステン市-オブルチ市＞

【4/22】06:00 ポーランド到着(14 時間)。07:40 ワルシャワ発の長距離バスで国境を越えてウクライナへ入国(13 時間)、30 時間近い行程でした。20:30 頃ジトミルのホテルに到着。

【4/23】9:00 に車で 135 km 移動して、コロステン市の消防局へ。福島への来日経験のある局長さんたちと再会。チェル救から支援した消防士たちの仮眠用ベッド等が使われているのを確認しました。

(次ページへ続く)

次に、北に位置するオブルチ市の消防局へ行き、消防士の記念碑に献花。初めて地下シェルターへ入りました。消防局ではどこも、直ちに出動できるよう整えられていて、「消防士は、武器を持たない戦士」と言われています、と。

オブルチでホームステイのナージャさんのお宅で、復活祭(パスハ)のお料理をいただきました。戦争を忘れそうなひと時でしたが、翌朝、「昨夜、ジトーミル市が爆撃にあったのですよ!」と。私たちはオブルチに滞在していたので、幸運にも無事でした。やはり人々にはこのような毎日が3年間続いているのだと再認識させられました。

<オブルチ市-ナロジチ町-ジトーミル市>

【4/24】 オブルチで爆撃被害のあった工場では、鉄骨が曲がり、コンクリートも無残に崩れていました。直撃された民家では住民2人が亡くなり、周辺の建物が全部被害を受け、爆撃の威力を目の当たりにしました。

オブルチ3番学校では、低学年の環境を考える授業、中学年のチェルノブイリ事故に関する発表とワークショップに参加。子どもたちは作品をプレゼントしてくれました。地下シェルターは机やイス、授業に使うモニターなどが整備されていましたが、子どもたちは授業の途中に空襲警報が鳴るとシェルターに駆け込むのだ、初期の頃ロシア軍から逃れて森へ逃げたのだと想像し、幼い子が恐怖に堪え、なんと過酷なことかとも思いました。

ナロジチ学校では、高学年生によるチェルノブイリ原発事故を悼む黙とうの後のパフォーマンスはとても印象的で、低学年の教室もみな熱心に学習していました。しかし、地下シェルターに降りて、あまりのひどさにびっくり。埃っぽく、古い配管はボロボロで、ここでは空襲警報が鳴ると、病気になりそうなシェルターには入らず、子どもたちの親が迎えに来て帰宅すること。ウクライナでは現在、シェルターのない学校は開けてはいけない決まりですが、ここは改善が必要と痛感させられました。

ナロジチ病院では、支援した検査の器具類を確認、レントゲン室の改修は終了していました。

<ジトーミル市>

【4/25】 チェルノブイリ原発事故の追悼式では、消防局前の記念碑に献花し、短いスピーチをして、事故処理作業の方たちに支援金を届けました。



「消防局長は入院しています」と副局長。前日のジトーミルへの爆撃の影響で、近くにいた車のフロントガラスが壊れ、体調が悪く入院されたとのこと。医師は、外傷はなく、爆撃の衝撃波の影響と説明されました。ご回復を祈るばかりです。

ジトーミル25番学校は、爆撃を受けた校舎の解体が6/20から始まったそうです。子どもたちは近くの仮校舎で一生懸命に勉強に励んでいました。シェルターはユニセフの支援を受けて、きれいに整備されていました。

<ジトーミル市-キーウ市>

【4/26】 乗り合いバスで、キーウの団体「ゼムリャキ/未来」の代表タマーラ・クラシツカさんに会いに行きました。キーウへの攻撃が激化して、常に安否が心配されます。そんな状況の中でメンバーの皆さんは日々、住民に支援品を届けています。

首都キーウの中心の独立広場は、亡くなった兵士の写真と国旗で埋め尽くされていました。兵士である息子さんを案じるタマーラさんに、私はそばで寄り添うことしかできませんでした。

<ジトーミル市-国境-ワルシャワ市へ>

【4/27】 最後に、3月に来日した25番学校と12番学校の生徒たちと交流し、将来の夢を教えてもらいました。何人かの生徒が「医者になりたい」「NGOで国際協力をしたい」等と、ウクライナの将来を期待させてくれる答えを聞けました。

18:25 夜行の長距離バスでポーランド国境へ向けて出発。国境越えに時間がかかり16時間後到着。

<ワルシャワ市>

【4/28】 09:30 ワルシャワ着、ホテルにチェックイン後、そのまましばらくベッドで熟睡。

【4/29】 22:50 ポーランド発の飛行機の出発まで、ワルシャワ市内の第2次世界大戦で破壊され、市民の手により復興を遂げた歴史地区の見学。

【4/30】 18:40 成田着で帰国、解散となりました。

ロシアによるウクライナ侵攻から 3 年経った今も終戦の兆しは見えない。そしてイスラエルとアメリカによるイランの攻撃が新たに始まった。この度の戦争で明らかになった大きな問題が、戦時下における原子力の安全性である。ロシアは 2022 年当初からウクライナのチェルノブイリ原発を占拠し、その後、南部のザポリジャ原発を爆撃した。そしてこの度、イスラエルとアメリカはイランの核施設を爆撃した。広島・長崎を経験した世界が、核攻撃禁止の国際条約を締結したにも拘らず、この度の戦争で核兵器を使わない核攻撃が露になった。多数の原発を持ち、原発回帰の政策に舵を切った日本はどうする。

ロシアによるウクライナの原発攻撃

連載 142 にも書いたが、ロシアはウクライナ侵攻から 8 日後の 2022 年 3 月 4 日深夜、ウクライナ南部のザポリジャ原発を爆撃した。稼働中の原発を爆撃したのは史上初めてである。ザポリジャ原発は 100 万 Kw の加圧水型 6 基が稼働中で、当時ウクライナ電力の 20% を供給していた。幸い爆弾は原子炉でなく職員研修施設に当たり全焼したが、原子炉に当たればチェルノブイリを遥かに超える大事故になり、ロシアは勿論ヨーロッパ全域が汚染した可能性がある。現在、ザポリジャ原発は停止し、ロシア軍が占拠して軍事基地化し、そこからウクライナ国内にミサイル攻撃を行っている。ウクライナ軍が攻撃できない事を見越しての戦略である。

イスラエルによるイラン原発の攻撃

パレスチナのガザ地区を攻撃してきたイスラエルは 2025 年 6 月 19 日、イラン西部アラク地区の原発を突然砲撃した。この原発はカナダの原発と同型の重水炉である。燃料に天然ウランを利用出来、核分裂で原爆の原料のプルトニウムが生産出来る特殊な原発である。幸いまだ建設中で稼働していなかったため、放射能の被害は起こらなかったが、爆弾は原子炉の格納容器に命中し、大きな穴が確認されている。イスラエルはこの事を承知の上で爆撃したと思わ

れる。もし、稼働中の原発ならチェルノブイリ級の放射能汚染が生じたと思われる。他にもイスラエルは数か所の核関連施設を爆撃している。その理由は、イランの核爆弾保有を阻止する為、という。他方、イスラエルは 1970 年に締結された国連の核拡散防止条約に署名しておらず、約 90 発の核兵器保有は公然の秘密である。

アメリカのイラン核施設攻撃

そして新たな事態が起こった。アメリカは 6 月 22 日、イランの主要な核濃縮施設 3 か所を爆撃した。この施設にはウラン濃縮施設がある。この施設をアメリカから飛び立った B2 爆撃機 6 機が地中深さ 60m まで浸透して爆発する新型爆弾バンカーバスター（重さ 13.6 トン）を 12 発投下した。爆撃の効果についてイランは明らかにしていないが、ウラン濃縮工場はこうした事態を想定し、地下 100m にあったとされている。

プーチンとトランプは新たな核戦争の扉を開けた。いつの日か世界が滅びる事態が起こらないよう世界の世論の喚起を祈るばかりである。

(2025 年 6 月 23 日 河田)

2024年度 活動計算書

特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部
(特定非営利活動に係る事業会計)

(単位:円)
自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日

科目		金額		
【経常収益】				
1. 受取会費	正会員受取会費	117,000	477,000	
	賛助会員受取会費	360,000		
2. 受取寄付金	ミルク支援	318,752	6,426,959	
	チェルノブイリ支援	116,000		
	福島原発被災支援	102,000		
	一般寄付	3,048,870		
	ウクライナ救援基金	2,825,337		
	能登支援事業	16,000		
3. 受取助成金		0	0	
4. 事業収益	啓発事業	3,460	3,460	
	イベント関連事業	0		
5. その他の収益	雑収入	154,825	157,488	
	受取利息	2,663		
	為替差益	0		
経常収益 計			7,064,907	
【経常費用】				
1. 事業費			5,414,343	
(1) 人件費	給料手当・日当	0		
	人件費計	0		
(2) その他経費	業務委託費	630,000		
	支援金	3,400,053		
	印刷製本費	222,270		
	諸謝金	190,888		
	旅費交通費	12,080		
	通信費	13,007		
	荷造運搬	638,612		
	消耗品費	90,346		
	賃借料	127,500		
	会議費	11,420		
	諸会費	0		
	支払手数料	75,403		
	売上原価	2,764		
	その他経費計	5,414,343		
事業費 計				5,414,343
2. 管理費				3,672,301
(1) 人件費	給料手当	1,980,645		
	法定福利費	5,170		
	人件費計	1,985,815		
(2) その他経費	通信費	181,036		
	荷造運賃	3,086		
	水道光熱費	85,234		
	旅費交通費	136,640		
	会議費	0		
	消耗品費	347,119		
	印刷製本費	5,270		
	地代家賃	801,402		
	保険料	17,730		
	租税公課	2,400		
	諸会費	36,000		
	支払手数料	69,025		
	雑費	0		
	為替差損	1,544		
	その他経費計	1,686,486		
管理費 計				
経常費用 計			9,086,644	
当期正味財産増減額			△ 2,021,737	
前期繰越正味財産額			8,144,351	
次期繰越正味財産額			6,122,614	

※定款（事業）第5条に基づく「その他の事業」は実施していません。

2024年度 財務諸表の注記

1. 重要な会計方針
計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)による。
(1) 棚卸資産の評価基準は原価基準、評価方法は最終仕入原価法による。
(2) 有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をする。
(3) 消費税等の会計処理は、税込経理方式による。
2. 事業別損益の状況
事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位：円)														
科目	医療 機関 支援 事業	粉 ミル ク支 援事 業	被 災者 団体 支援 事業	ク リ ス マ ス カ ー ド 事 業	業 務 委 託 事 業	通 信 誌 発 行 事 業	イ ベ ン ト 関 連 事 業	福 島 原 発 被 災 支 援 事 業	啓 発 事 業	ウ ク ラ イ ナ 救 援 事 業	能 登 支 援 事 業	事 業 部 門 計 (A)	管 理 部 門 (B)	合 計 (A+B)
【経常収益】														
受取会費												0	477,000	477,000
受取寄付金 (指定寄付)	58,000	318,752	58,000					102,000		2,825,337	16,000	3,378,089		3,378,089
受取寄付金 (指定なし按分)	310,984		30,489	91,466	326,229	259,155	15,245	310,984				1,344,552	1,704,318	3,048,870
受取助成金												0		0
事業収益									3,460			3,460		3,460
その他の収益									149,825			149,825	7,663	157,488
経常収益 計	368,984	318,752	88,489	91,466	326,229	259,155	15,245	412,984	153,285	2,825,337	16,000	4,875,926	2,188,981	7,064,907
【経常費用】														
(1) 人件費												0	1,980,645	1,980,645
給料手当・日当												0	5,170	5,170
法定福利費												0		
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0	1,985,815	1,985,815
(2) その他経費												630,000		630,000
業務委託費					630,000							630,000		630,000
支援金	600,000	270,000	60,000					600,000		1,120,000	750,053	3,400,053		3,400,053
印刷製本費				5,490		170,390	2,700			43,690		222,270	5,270	227,540
会議費										11,420		11,420		11,420
諸謝金							33,063		149,825	8,000		190,888		190,888
旅費交通費							3,090			8,990		12,080	136,640	148,720
通信費				12,359						648		13,007	181,036	194,043
荷造運搬費				96,378		322,968				219,266		638,612	3,086	641,698
消耗品費				23,161				1,100		66,085		90,346	347,119	437,465
地代家賃												0	801,402	801,402
水道光熱費												0	85,234	85,234
貸借料				17,500						110,000		127,500		127,500
売上原価									2,764			2,764		2,764
保険料												0	17,730	17,730
租税公課												0	2,400	2,400
諸会費												0	36,000	36,000
支払手数料	6,431	7,964	1,413	110	19,000	218	165	2,995		36,760	347	75,403	69,025	144,428
雑費												0	0	0
為替差損												0	1,544	1,544
その他経費計	606,431	277,964	61,413	154,998	649,000	493,576	39,018	604,095	152,589	1,624,859	750,400	5,414,343	1,686,486	7,100,829
経常費用計	606,431	277,964	61,413	154,998	649,000	493,576	39,018	604,095	152,589	1,624,859	750,400	5,414,343	3,672,301	9,086,644
当期経常収支差額	-237,447	40,788	27,076	-63,532	-322,771	-234,421	-23,773	-191,111	696	1,200,478	-734,400	-538,417	-1,483,320	-2,021,737

3. 使途等が制約された寄付金等の内訳
使途等が制約された寄付金等の内訳は以下の通りです。当法人の正味財産は6,122,614円ですが、そのうち5,088,292円は下記のように使途が特定されています。したがって、使途が制約されていない正味財産は1,034,322円、当期正味財産増減額は△231,003円です。なお、ウクライナ救援基金累計より10%を上限として管理費に充当しています。

(単位：円)					
内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
ウクライナ救援基金	5,864,951	2,825,337	3,914,859	4,775,429	ウクライナ救援部門経費(1,624,859円) 医療機関支援金(60万円)、被災者団体支援金(6万円) 業務委託費(63万円)、管理費に1,000,000円を充当
粉ミルク支援	272,075	318,752	277,964	312,863	ミルクキャンペーン支援金310,000円は翌期に送金
合計		3,144,089	4,192,823	5,088,292	

2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日)の会計報告を監査した結果、異常なく正當に処理されていることを証明します。

2025年 6月 9日 監査人 大谷 早苗 印

【寄付・会員状況のお知らせ】

- ◆3月 寄付／会費 213,000 円
 - ◆4月 寄付／会費 413,232 円
 - ◆5月 寄付／会費 228,500 円
 - ◆2025 年度累計（ウクライナ救援基金を除く）
566,732 円（5 月末）
 - ◆2025 年度ウクライナ救援基金 593,550 円（5 月末）
 - ◆ウクライナ救援基金累計 29,357,750 円
（2022/3/7～2025/5/31）
 - ◆会員数 166 名
 - ◆ポレーシェ読者数 692 名
- ～心温まるご支援をありがとうございました～

【寄付のお願い】

- ◆銀行振込先
三菱UFJ 銀行 高畑支店 普通 1682863
 - ◆郵便振替 00880-7-108610
〈口座名義〉
特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部
- *クレジットカードでも受け付けております
（ページ下の QR コードから寄付ページへアクセス！）
- ※手書き領収書の郵送が必要な方はご連絡ください

当団体は「認定特定非営利活動法人」ではございませんので、ご寄附は
税額控除の対象にはなりません。ご了承のほどお願いいたします。



仏教法人「アーユス」のご支援について報告

仏教法人「アーユス」から 2024 年度の時局対応支援（50 万円）を頂き、チェルノブイリ被災者の団体「未来」を通じて、キーウ市デスニャンスクイ小児外来病院で医師らが使うノート PC2 台（写真上）と患者の子ども達の待合室のテーブルと椅子（写真下）、非接触体温計〈6 台〉を購入しました（30 万円）。

また、「チェルノブイリ・ホステージ基金」を通じて、ジトミル州ナロジチ地区の子ども達の芸術学校、児童創造センターにエアコン（2 台）を設置しました。児童創造センターは子ども

165 名、10 のサークルで、絵画や装飾、生態・自然科学などを学んでいる公立学校ですがエアコンがなく、冬は寒く夏は暑いので苦労していました。この学校の 2 つの教室にエアコンが設置されました（20 万円）。

支援者の方からご寄付とともにメッセージをいただきました

- いつもポレーシェをお送り下さいましてありがとうございます。「子供の家」の支援にお役立ていただければと存じます。（兵庫県 I 様）
- ウクライナに栄光あれ!!（広島県 S 様）～病床から励ましの声を届けてくれました～



発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

〒460-0012 名古屋市中区千代田 5 丁目 11-33 ST PLAZA TSURUMAI 本館 5B

TEL & FAX 052-228-6813（月・水・金 10:00～15:00）

E-mail chqchubu@muc.biglobe.ne.jp URL <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

印刷 エープリント

